

Canon

RF

100mm F2.8 L MACRO IS USM

使用説明書

JPN

# キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノン RF100mm F2.8 L MACRO IS USM は、EOS Rシリーズカメラ用のマクロレンズです。

- ISはImage Stabilizer (手ブレ補正機能) の略称です。
- USMはUltrasonic Motor (超音波モーター) の略称です。

## カメラのファームウェアについて

お使いのカメラのファームウェアは最新のバージョンにしてください。ファームウェアの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

## 本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる可能性のある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

## 安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や障害の発生を防ぐためにお守りください。



**警告** 死亡や重傷を負う可能性がある内容です。

- レンズを通して、太陽や強い光源を直接見ないでください。失明の原因となります。
- レンズキャップを取り付けていないレンズを、日光下に放置しないでください。レンズに入った太陽光が集まり、故障や火災の原因となります。



**注意** 傷害や、製品以外の物的損害を負う可能性がある内容です。

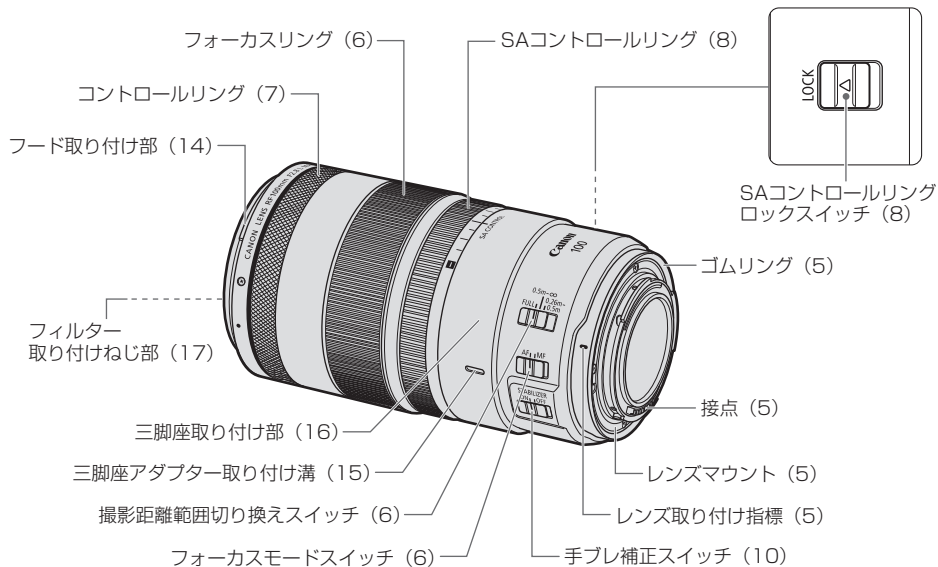
- 製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。製品に触れるとやけどやけがの原因となります。

# 一般的なご注意

## 取り扱い上のご注意

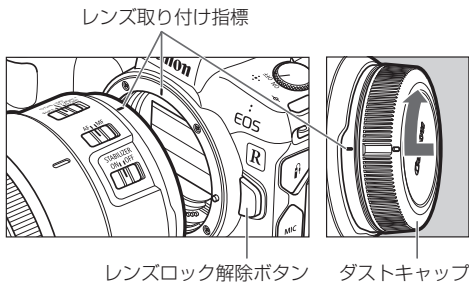
- 日光下の車の中など、高温となる場所に製品を放置しないでください。故障の原因となります。
- レンズを寒い場所から暖かい場所に移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かい場所から寒い場所に移すときも、同様にしてください。
- レンズの内部が揺れ動いて見えることがありますが、故障ではなく、使用上の問題はありません。
- 適切な絞り制御のため、絞り優先AEやマニュアル露出などの絞り数値を指定した撮影時であっても、ピント合わせによって絞り羽根が動くことがあります。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

# 各部の名称



● (\*\* ) の \*\* 部は参照ページを示しています。

# 1. レンズの取り付け／取り外し



## レンズの取り付け方

レンズ側とカメラ側のレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

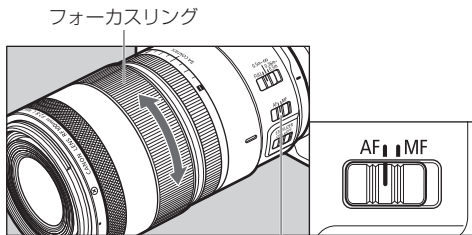
## レンズの取り外し方

カメラのレンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。回転が止まるまで回してから取り外します。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- レンズの取り付け/取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
  - レンズを取り外す前に、レンズキャップを取り付けてください。
  - レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、レンズマウント側を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。ダストキャップを取り付けるときは、レンズ側とダストキャップ側の取り付け指標を合わせてください。
  - 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いたときは、柔らかい布で接点を清掃してください。
  - 防じん・防滴性能の向上のために、このレンズではレンズマウントにゴムリングが付いています。このゴムリングにより、カメラのレンズマウント周辺に細い擦れ跡が付くことがありますが、使用上の問題はありません。
- ゴムリングはキャノンサービスセンターで交換できます。(有料)

## 2. フォーカスモードの選択



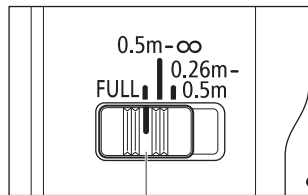
フォーカスモードスイッチ

オートフォーカス(AF)で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。  
マニュアルフォーカス(MF)で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます。

- フォーカスリングを急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。

- このレンズのフォーカスリングは電子式です。
- カメラのAF動作が [ONE SHOT] のとき、AFのあとシャッターボタン半押し状態で、マニュアルフォーカスができます。(フルタイムマニュアルフォーカス) ただし、カメラの設定変更が必要です。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

## 3. 撮影距離範囲の選択



撮影距離範囲切り換えスイッチ

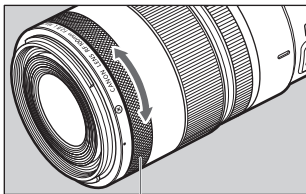
撮影距離の範囲をスイッチで選びます。撮影距離に応じて選ぶことで、意図しない距離の被写体にピントが合うことを防ぎます。

### 撮影距離範囲

- ① FULL(0.26m-∞)
- ② 0.5m-∞
- ③ 0.26m-0.5m

## 4. コントロールリング

コントロールリングは、シャッター速度や絞り数値の設定など、カメラでよく使う機能を割り当てて使います。



コントロールリング

コントロールリングは回すとクリックがあり、回した量が分かるようになっています。コントロールリングの使い方について、詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。



- コントロールリングの操作音は動画撮影中に録音されることがあります。



- キヤノンサービスセンターで、コントロールリングのクリックを無くすことができます。(有料)

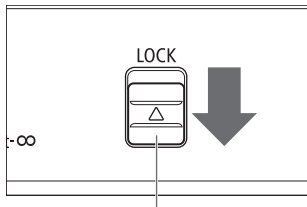


## 5. SAコントロールリング

SAコントロールリングは、ボケの描写を変化させたり、ソフトフォーカス効果（被写体を柔らかい雰囲気に描写する効果）を得たいときに使用します。

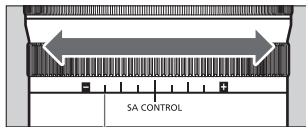
● SAはSpherical Aberration（球面収差）の略称です。

### SAコントロールリングの使い方



SAコントロールリングロックスイッチ

- 1 SAコントロールリングロックスイッチを矢印の方向にスライドします。



SAコントロールリング

- 2 SAコントロールリングを中心位置から+または-の方向に回します。

- SAコントロールリングを+側に回すと、ピント位置よりも手前のボケの輪郭が柔らかくなり、ピント位置よりも後方のボケの輪郭が硬くなります。



- SAコントロールリングを-側に回すと、ピント位置よりも後方のボケの輪郭が柔らかくなり、ピント位置よりも手前のボケの輪郭が硬くなります。

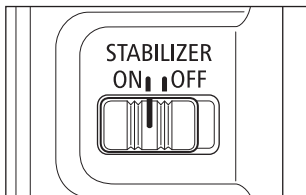


## SAコントロールリング

- SAコントロールリングを使用しないときは、SAコントロールリングを中心（クリックがある）位置まで戻してから、SAコントロールリングロックスイッチをLOCKの位置にスライドしてください。
- SAコントロールリングの操作によって、画角と露出が変化します。  
そのため、SAコントロールリングの操作の後に、構図の調整を行ってください。
- SAコントロールリングによる効果は被写体の条件（撮影距離や被写体と背景、前景との距離等）によって異なります。撮影距離が無制限（ $\infty$ ）から近づくほど効果は大きくなり、0.50mのときに最も効果は大きくなります。0.50mからは近づくほど効果は小さくなり、0.26mでは効果はありません。
- SAコントロールリングによる効果は絞り数値によっても変わります。絞り数値が小さい（絞りを開く）ほど効果は大きくなり、開放絞りのときに最も効果は大きくなります。逆に絞り数値が大きい（絞りを閉じる）ほど効果は小さくなります。そのため、絞り優先AEでの撮影をおすすめします。
- SAコントロールリングを急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。
- SAコントロールリングを使用しているときもオートフォーカス（AF）を使用することはできますが、被写体によってはピントが合いにくい場合があります。その場合は、マニュアルフォーカス（MF）での撮影に切り替えてください。なお、フォーカスガイドのガイド枠も正しく表示されない場合があるため、映像を拡大表示して、手動でピントを合わせてください。
- 被写体によってはSAコントロールリングの操作によって、ピント位置がずれる場合があります。その場合は、再度ピント合わせを行ってください。

- このレンズはSAコントロールリングの目盛を中心位置に合わせた場合に最大の解像力が得られます。

## 6. 手ブレ補正機能



手ブレ補正機能を使用するときは、手ブレ補正スイッチをONにします。

- 撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮り、近接（マクロ）撮影など）に応じた手ブレ補正を行います。
- ボディー内手ブレ補正機構搭載のカメラと組み合わせると協調制御を行います。
- 手ブレ補正機能を使用しないときは、手ブレ補正スイッチをOFFにします。

- 撮影距離が短くなるにしたがい、手ブレ補正効果は低下します。
- 被写体が動くことによって生じるブレは補正できません。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 三脚を使用した場合は、手ブレ補正スイッチをOFFにすることをおすすめします。
- 一脚を使った場合も手ブレ補正は働きますが、撮影条件によっては補正効果が十分に得られないことがあります。

## 手ブレ補正機能

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影に適しています。



- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボが使えない場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使えない状況



- 自動車や鉄道などの流し撮り  
水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。

## 7. 手持ちによる近接（マクロ）撮影について

このレンズは無限遠の撮影から1.4倍までの近接（マクロ）撮影ができます。

### カメラをしっかり構える

近接（マクロ）撮影を手持ちで行うときは、右のイラストのようにカメラをしっかり構えて手ブレやピント移動をできるだけ少なくして慎重に撮影してください。

### サーボAFで撮影する

近接（マクロ）撮影では、カメラのAF動作を[サーボAF]に設定して撮影することをおすすめします。詳しくは、カメラの使用説明書をご覧ください。

● 近接（マクロ）撮影では、次のことに注意が必要です。

- 一般撮影よりも手ブレの影響が大きくなるため、手ブレ補正効果は少なくなります。
- 被写界深度が極めて浅くなるうえ、カメラの前後方向の動きにより、ピント移動が生じます。

● 最短撮影距離（被写体から撮像面までの距離）は0.26mです。なおワーキングディスタンス（レンズ先端から被写体までの距離）は、8.6cmです。



両ひじを、机などで支えてください。



カメラやレンズを持った腕のひじを、ひざで支えてください。



しっかりした壁などで、体と腕を支えてください。

## 8. 近接（マクロ）撮影時の露出

### 露出の決め方

TTL測光により撮影するときは、レンズを透過した光の量を測るため、露出補正の必要はありません。すべての撮影距離で、TTL測光によりAE（自動露出）撮影ができます。任意の撮影モードを選択し、シャッター速度、絞り数値を確認して撮影します。

### 撮影倍率と実効FNo.

カメラに表示される絞り数値は、ピントが無限遠（ $\infty$ ）のときの数値です。実際の絞り（実効FNo.）は、撮影距離が近づく（撮影倍率が高くなる）にしたがって暗く（実効FNo.数値が大きくなる）になります。これは一般撮影の領域では露出にほとんど影響はありませんが、近接（マクロ）撮影の場合、実効FNo.の変化は無視できません。

単体露出計を使用して露出を決めるときは、次の露出倍数を加えて撮影してください。

撮影倍率（倍）	0.5	1.0	1.4
撮影距離（m）	0.38	0.28	0.26
実効FNo.	4.5	5.7	6.6
露出倍数（段）*	+4/3	+2	+7/3
	+3/2	+2	+5/2

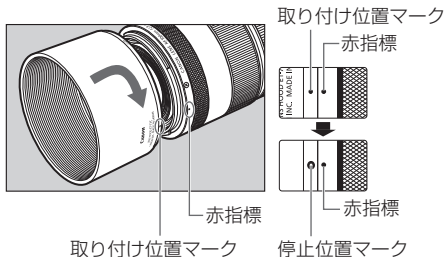
\* 上段：1/3段表示 下段：1/2段表示



- 近接（マクロ）撮影の適正露出の決定には、被写体条件が大きく影響します。そのため、できるだけ露出を変えて撮影するか、撮影画像をカメラの液晶モニターで確認しながら撮影することをおすすめします。
- 近接（マクロ）撮影時の撮影モードは、被写界深度や露出の調整のしやすい絞り優先AE（Av）またはマニュアル露出（M）をおすすめします。

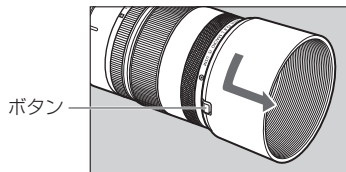
## 9. フード

専用のフードは、フレアやゴーストの原因となる不要光をさえぎるとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



### フードの取り付け方

フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標を合わせ、フードを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。



### フードの取り外し方

フードの側面にあるボタンを押しながら、フードの取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外します。  
収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

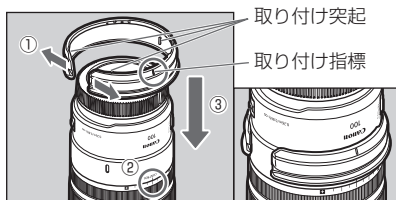


- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元付近を持って回してください。フードの先端付近を持つと変形して回らなくなることがあります。

## 10. 三脚座（別売）

このレンズは別売の「リング式三脚座E（B）RF100mm F2.8 L MACRO IS USM用アダプター付き」が使用できます。レンズに三脚座アダプターを取り付けてから、三脚座を取り付けてください。

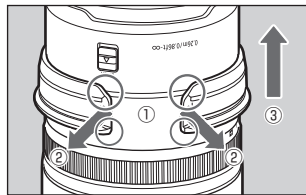
### 三脚座アダプターの取り付け



三脚座アダプターの開口を広げながら (①)、三脚座アダプターの取り付け指標とレンズのSAコントロールリングの指標を合わせ (②)、レンズマウント側からスライドして取り付けます (③)。

- レンズの三脚座アダプター取り付け溝と、三脚座アダプターの取り付け突起が確実にあっている (回転しない) ことを確認してください。

### 三脚座アダプターの取り外し



三脚座アダプターの間口の角に指をかけて (①)、両手で間口をレンズ先端側へ押し広げながら指でつまみ (②)、レンズマウント側へスライドして取り外します (③)。

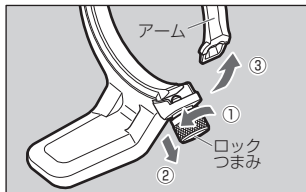
- 三脚座アダプターを取り外した後、レンズの表面に白い粉状のものが付着した場合は、布等で拭き取ってください。

- ⚠ ● 三脚座アダプターの取り付けや取り外しは、レンズキャップとダストキャップを取り付けた状態で、レンズマウント側を上にして置いてから行ってください。



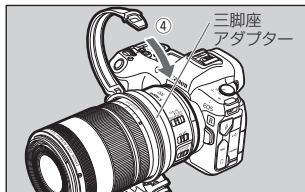
## 三脚座（別売）

### 三脚座の取り付け



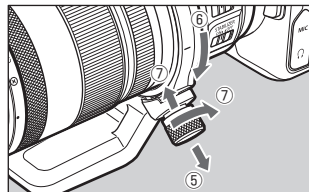
#### 1 三脚座のアームを開く

- ロックつまみを空回りするまで（約3回転）ゆるめます（①）。
- 矢印の方向にロックつまみを引っぱりながら（②）アームを開きます（③）。



#### 2 レンズに取り付ける

- アームを開いたまま三脚座アダプターにはめ込み、アームを閉じます（④）。



#### 3 レンズに固定する

- ロックつまみを引っぱりながら（⑤）、開いたアームの先端を元の位置まで差し込みます（⑥）。
- ロックつまみを押しながら回して締めつけ、しっかりレンズに固定します（⑦）。

三脚座を取り外すときは、カメラやレンズを持って、上記の逆の手順で取り外します。

### レボルビング（回転）

三脚座のロックつまみをゆるめると、カメラごと回して画面の方向（縦位置、横位置など）を任意に設定できます。設定後はロックつまみを締めつけてください。

## 三脚座（別売）

- 三脚座に三脚を取り付けて撮影する場合、シャッター方式の設定を変更できるカメラでは、[電子先幕] もしくは [電子シャッター] の使用\*をおすすめします。  
\* EOS Rを使用の場合は、LVソフト撮影の設定で初期設定の [モード1] もしくは、[モード2] を選択するか、サイレントシャッターの設定で [する] を選択します。
- 持ち運ぶときは、三脚座のロックつまみがしっかりと締めつけられていることを確認してから丁寧に運んでください。製品が落下して、故障やけがの原因となります。

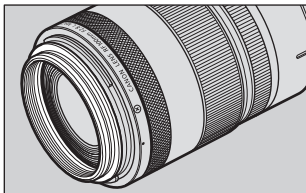
## 11. フィルター（別売）

フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けねじ部に取り付けます。

- フィルターとキヤノンマクロ専用ストロボを併用することはできません。
- 偏光フィルターはキヤノン円偏光フィルター PL-C Bを使ってください。
- 円偏光フィルターの調整をするときは、フードを取り外してください。

## 12. 接写専用ストロボ（別売）

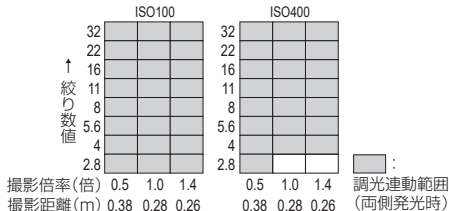
キヤノンマクロリングライトストロボMR-14EX II またはマクロツインライトMT-26EX-RTを使用して、E-TTL II 自動調光による1.4倍までの近接ストロボ撮影を行うことができます。マクロライトアダプター 67（別売）をレンズ先端のフィルター取り付けねじ部に取り付けてから使用してください。



- MR-14EX II またはMT-26EX-RTの使い方などについては、それぞれの使用説明書を参照してください。

### ■ MR-14EX II を使用した場合

- ・ 調光連動範囲の目安  
(SAコントロールリングが中心位置の時)



- SAコントロールリングを操作すると調光連動範囲は変化します。そのため、事前にテスト撮影を行い、露出を確認してください。

### ■ MT-26EX-RTを使用した場合

MT-26EX-RTの調光連動範囲は、発光部の設定位置により、その範囲が大きく異なります。

- 露出がオーバーになる場合は、ディフューザーアダプターを併用したりISO感度の数値を小さく設定したり、絞りを絞るなどして撮影してください。

# 主な仕様

焦点距離・明るさ	100mm F2.8
レンズ構成	13群17枚
開放絞り数値	F2.8
最小絞り数値	F32
画角	水平20°、垂直14°、対角24°
最短撮影距離	0.26m
最大撮影倍率	1.4倍
画界	約25×17mm (0.26m時)
フィルター径	67mm
最大径×長さ	約81.5×148mm
質量	約685g
フード	ET-73C
レンズキャップ	E-67II
ケース	LP1319
三脚座	リング式三脚座E (B) RF100mm F2.8 L MACRO IS USM用アダプター付き (別売)

- レンズの長さはレンズマウント面からレンズ先端までの寸法です。  
付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+24.2mmになります。
- 最大径×長さ・質量は本体のみの値です。
- クローズアップレンズ250D/500Dは使用可能なサイズがありません。
- エクステンダーは使用できません。
- 記載のデータはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

## 修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品の製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の機種への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、お手持ちの消耗品や付属品がご使用いただけなくなることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEOSホームページ

**canon.jp/eos**

キヤノンお客様相談センター

**0570-08-0002**

(つながらないときは 050-555-90002)

受付時間〈平日/土〉9:00～17:00

(12月31日から1月3日は、休ませていただきます。)

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

**Canon**